

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名：地域高規格道路 阿南安芸自動車道 一般国道55号 大山道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 四国地方整備局			
起終点：自：高知県安芸市下山 至：高知県安芸市河野	延長：2.0km				
事業概要： <p>一般国道55号は、徳島市を起点に室戸阿南海岸国定公園を経て、高知市に至る延長約216kmの幹線道路であり、高知県、徳島県の産業経済を支える大動脈であるとともに、通勤等、日常生活に欠かせない生活道路としての役割を持つ重要な路線である。</p> <p>大山道路は、現国道の災害多発箇所を迂回することで災害時の交通途絶を回避するとともに、高規格幹線道路網等の空白地帯である四国東南地域にとって重要な役割を担う地域高規格道路・阿南安芸自動車道の一部として、地域連携を支援し、高速性、安全性の確保に資するものである。</p>					
H16年度事業化	H18年度用地着手	H20年度工事着手			
全体事業費	約63億円	事業進捗率	約15%	供用済延長	0.0km
計画交通量	11,100台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	1.1	総費用 (残事業/事業全体) 48/58億円 〔事業費：45/54億円〕 〔維持管理費：3.5/3.5億円〕	総便益 (残事業/事業全体) 64/64億円 〔走行時間短縮便益：46/46億円〕 〔走行経費減少便益：13/13億円〕 〔交通事故減少便益：5.1/5.1億円〕	基準年 平成21年
	(残事業)	1.3			
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・交通量変動：B/C= 1.4 (交通量+10%) B/C= 1.2 (交通量-10%) ・事業費変動：B/C= 1.2 (事業費+10%) B/C= 1.4 (事業費-10%) ・事業期間変動：B/C= 1.3 (事業期間+1年) B/C= 1.3 (事業期間-1年) 					
事業の効果等 <p>大山道路は広域交流基盤となる地域高規格道路「阿南安芸自動車道」を形成することにより、地域の活性化を支援するとともに、現国道の災害多発箇所を迂回することで災害時の交通途絶を回避し、救急医療や災害時の緊急輸送を支えるなど重要な役割を担う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①円滑なモビリティの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・現道等の渋滞損失時間の削減が見込まれる。【125千人・時間/年→0千人・時間/年 100%削減】 ②物流効率化の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・高知県東部地域において農林水産品の流通の利便性が向上。 【なす出荷量県内シェア 安芸市1位、安田町3位】 ③国土・地域ネットワークの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・地域高規格道路の位置づけがなされている。(阿南安芸自動車道) ④災害への備え <ul style="list-style-type: none"> ・近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する。(約13,000人(安田町、田野町、奈半利町、北川村、馬路村)) ・現国道55号は第1次緊急輸送路に指定されている。 ・現国道55号は高知県東部地域唯一の幹線道路でありその代替路線を形成。 ・現道等の防災点検要対策箇所が解消される。 ⑤地球環境の保全 <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量が約0.7千t/年(1.8%)削減【約36,514t/年⇒約35,853t/年】 ⑥生活環境の改善・保全 <ul style="list-style-type: none"> ・NOX排出量が約16.3t/年(約10割)削減【約16.3t/年⇒約0t/年】 ・SPM排出量が約1.6t/年(約10割)削減【約1.6t/年⇒約0t/年】 					
関係する地方公共団体等の意見 <p>県知事等の意見： <ul style="list-style-type: none"> ・大山道路をはじめとする阿南安芸自動車道は、四国8の字ネットワークを形成し地域間連携・物流強化を図るうえで、重要な社会基盤であるとともに、災害時の交通遮断を回避するなど、緊急時の災害輸送等の役割を担う「命の道」となることから、引き続き事業を継続し、早期全線供用を目指すべきである。 </p>					

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成20年7月に四国横断自動車道（高知自動車道）の川之江JCT～高知IC間の4車線化事業が全て完了。

事業の進捗状況、残事業の内容等

今後の見通し：工事等を推進

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

供用に向けて、工事の推進を図る

施設の構造や工法の変更等

トンネル断面の縮小やトンネル内路側排水構造の変更等によりコスト縮減を図る。

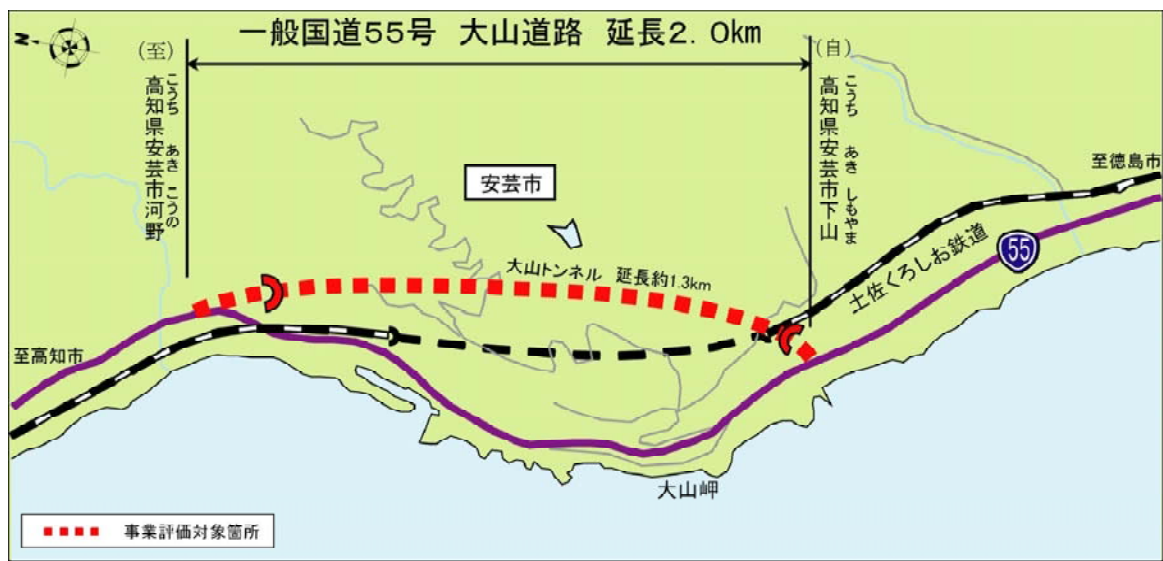
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。